

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100522		
法人名	株式会社リラ		
事業所名	グループホームリラ		
所在地	福岡県北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	令和7年1月22日	評価結果確定日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴等からの生活習慣や本人の現状を尊重し、できる限り本人本位の生活を支援していくことを心がけています。利用者様のご家族だけでなく、地域密着型施設として、近隣住民が気軽に来園しやすい場所や地域づくりを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム リラ(2ユニット)」は、北九州市門司区のJR小森江駅から徒歩10分程度の住宅街に位置する。医療法人を母体として開設後10年以上経過するが、病院は既に閉院、令和5年4月より「株式会社リラ」を運営母体として再出発を切っている。ビルの1・2階で、小規模多機能事業所を併設している。コロナ禍もようやく落ち着き、家族らの面会や外出も制限を撤廃、門司港レトロ地区、風師山(かざしやま)、和布刈(めかり)公園、白野江植物公園などへ車で出かけたり、関門海峡が一望できる喫茶店でくつろいだり…といった外出も楽しんでいる。児童が演奏を披露する「羽山太鼓」の見学などの地域との交流や、小規模多機能と合同で行う施設内でのレクリエーションなどにも力を入れている。一人ひとりの生活を大事にして、朝ゆっくり寝る方や、寝る前にお酒をたしなむ方がいるなど、これまでの生活習慣を通して、個人に向き合ったケアを提供している。今後も地域に根付いた活躍が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和7年2月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	70	

自己		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を作成し、各ユニットにて目につきやすい場所に掲示し、共有できやすいようにしている。 ・入居者様が、安心して過ごせるよう支援している。	開設当初より、グループホーム独自の理念がある。ユニット内やエレベーターホールなど、目につく場所に掲示している。朝の申し送りや、入社時オリエンテーション、毎月の会議などでも理念に触れる機会を作って共有に努めている。全職員が日々のケアを通して、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会など地域コミュニティとの連携を図り、運営推進会議等で、地域の依頼があれば、地域行事等積極的に支援している。地域にある神社のお祭りの準備、後片付けに職員が参加している。また、利用者様をお連れして、地域行事に参加している。	地域とのつながりを大切にしており、下記のような交流に取り組んでいる。 ・校区の神社のお祭りへ準備・片付け等で協力し、利用者と一緒に参加している。 ・児童が演奏を披露する「羽山太鼓」の見学をする。 ・校区での敬老会の催しに参加する。 ・月2回ボランティアの受け入れをしている。 ・職員が地域清掃に協力する。	令和6年の夏祭りには不参加だったが、できれば「焼き鳥」の出店をしたかった、とのことであり、本年はぜひ、利用者も参加して楽しみたいものです。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の会合や行事に積極的に参加し、コミュニケーションをとる中で地域の問題に対し相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議にて日々の活動や行事等を報告する中で、地域や行政から意見をいただき、事業所の運営に生かしている。	コロナ禍でやむを得ず中止した時期もあったが、既に再開して、2か月ごとの定期開催が定着、併設する小規模多機能施設と日程を合わせて開催している。包括職員、市民センター職員、町内会長、他の介護事業所の職員、利用者(0~2名)、利用者家族(全員に案内や声掛けして0~4名くらいが出席)が参加する。入居状況や活動報告、事故報告等を協議し、参加者からは意見や質問が上がり、地域の情報も得ている。会議の内容は職員が共有、運営にも活かしている。	運営推進会議に対して家族に関心を持ってもらい、出席を増やすために、開催の曜日や時間の変更をするなど、努力を重ねてきたと聞く。今後、家族にも議事録(または会議内容を集約したもの)を送ってみてはいかがでしょうか。また、たとえば認知症や骨粗鬆症の薬のことや「おむつ」の種類のことなど、家族が興味を持たれそうなテーマについて説明の時間を作ったり、避難訓練や昼食の試食などの行事との同時開催をしたりして、内容を見直しても良いのではないのでしょうか。職員の中に、お茶を畑にて生育、実際に茶摘みや乾燥をしている方がいるそうなので、おいしいお茶を入れて和やかなひとときを過ごすのも良いのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・北九州市の介護保険課の担当職員や、地域包括支援センターの担当職員と、日頃より連絡や相談をしている。	感染症や制度上の取扱、困難事例などは、こまめに質問や相談をしている。行政とは、事故報告、介護認定申請(直接窓口にて)の他、生活保護の利用者の件で担当課とのかわりもある。包括とは、運営推進会議への協力に加え、入居についての相談、成年後見制度の申請手続への協力もある。小規模多機能事業所連絡会の会長を務めている。円満で良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者様に尊厳のある生活を送ってもらえるよう、各職員に周知、徹底している。3か月に1回身体拘束等に関する委員会を開催し、介護職員、管理者、計画作成担当者それぞれの立場から、適切なケアを実践できるように協議している。	緊急でやむを得ないと判断される場合を除いて、身体拘束をしないケアの実践に職員全体で取り組んでいる。3ヶ月に1回の身体拘束に関する委員会で協議した内容については職員にも周知徹底、また職員は研修を通して、スピーチロックを含めた拘束についての理解を深めている。帰宅願望のある方もいるが、無理強いせず付き添い、落ち着くまで見守り対応している。	

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者による職員への指導の実施 ・3か月に1度虐待防止委員会の開催		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要に応じて、成年後見制度の案内を実施している。	現在制度利用されている方はいないが、職員は研修を通して認識を共有している。事業所としては、玄関にパンフレットを常備し、必要時には管理者が説明して外部機関(包括など)につなぐ体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・新規契約時や契約更新時に内容説明を行い、疑問点や不安点を解消するように努めている。また必要に応じて、パンフレットや書面等を使いながら、説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族面会時に必要に応じて、要望の聞き取りを行っている。 ・意見箱の設置している。	コロナも5類となって、家族の面会、家族との外出(外食・外泊を含む)も制限を撤廃して、喜ばれている。家族からは、訪れた際に直接、または電話等で、意見や要望を聞いている。意見箱も設置しているが投函はない。利用者からは日頃の会話から意見や要望を聞き取るが、発露が困難な方からは日頃の表情の変化などから把握に努めている。	家族との交流、あるいは家族間の意見交換などを、更に風通しの良いものにするため、家族に対する満足度アンケートや、家族会の開催などを検討してみたいかかかでしょう。 施設としての機関誌(お便り)はない、とのことですが、ネット環境が進む昨今において、利用者家族への近況報告、情報の共有、写真や動画などの提供…などが、いちばん効果的で、職員の手間も少なく、家族からも喜ばれる方法を、今後も検討していただきたいと思えます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員を対象とした、管理者による定期的な個人面談を実施。 ・その都度必要に応じた面談、会議の実施。	会議や個人面談を通して、ケアの方法や備品の提案等についても意見や要望を出して反映されている。管理者や上長が現場にすることが多く、日頃から相談しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の特性に合ったチーム編成、担当業務の振り分けを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・職員募集の際、性別、年齢、生活状況による採用、不採用をしていない。また、釣りや折り紙、お茶づくり、お茶会など、職員のこれまでの経験や得意分野を生かし、レク活動などに反映している。	男女比は2:3程度で30~80歳代の幅広い年齢層が勤務し、職員同士のコミュニケーションは良好である。希望休なども取りやすく、休憩時間や場所も確保されている。資格取得に向けた支援などもされており、自己研鑽に励んでいる。個々の能力や特技を活かして(利用者の変化に、自然に敏感に気が付くため周囲からも一目置かれている職員がいる。また、お茶を畑にて生育、実際に茶摘みや乾燥をして、提供する職員がいる)、年齢や性別にこだわることなく、生き生きと仕事している。	

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・日常の言葉遣い、接遇等、日々の業務の中で、管理者や職員同士にて確認し、必要に応じて助言、教育を行っている。	認知症高齢者の理解や、虐待防止などについては年間計画をもとに研修を実施して、啓発に繋げている。他の介護事業所の見学の受入にも応じている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に研修を実施し、技術や意識の向上につとめている。外部研修への参加や資格取得について配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修に参加した際、同業者と情報交換等、適宜交流をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のアセスメント、もしくは入居後、本人、担当ケアマネやリーダー、本人家族と面会し、相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時にお互いの疑問点、不安点を解消すべく連絡を密にとり信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時にグループホームだけでなく、併設している小規模多機能型居宅介護施設や外部サービスの提案を含めご家族、本人様のニーズに沿った利用法をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常の生活の中で、利用者様ができることは積極的にかわりを持ってもらい、共同生活の構築を図っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・帰宅を希望される家族もあり、感染防止対策を徹底した上で、定期的な外泊、外出の機会を確保している。 ・家族に随時適切に利用者様の状況を伝え、情報の共有に努めている。		

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前からのかかりつけ病院へ定期受診したり、入居者に関係のある場所へ外出したりしている。	現在も感染対策には注意を払っているが、面会、外出(外食・外泊を含む)の制限は撤廃しており、そんな中で、馴染みの知人や近所の方の来訪への対応や、電話の取次ぎや手紙の発信などの支援などを適宜行っている。病院を定期受診する際に、馴染みの医師や看護師、事務職員らに会って話をするのを楽しみにしている利用者もいる。これまでの馴染みの関係が途切れさせないようにしたい、という思いは強い。	コロナ禍もあって、全利用者が訪問理美容を利用しており、それが新しい馴染みになってはいるが、以前は、家族が行きつけだった美容室にお連れしていたこともあった、と聞く。家族に提案をすることで、家族と一緒に馴染みの場所を訪れる機会が増えたら良いと思います。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、長所、相性、特性や生活歴を考慮した役割分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時の相談やお見舞い等を含め、希望時や必要時に、連絡、連携、援助を行っている。また、必要に応じて退所先にも出向き、本人の様子を確認したり、関係機関との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の配席の考慮、意向、特性、生活歴に応じた役割分担を行っている。実現可能な要望や入居前の生活リズムを尊重しながら、過ごしやすい生活が送れるよう、支援している。	入居時のアセスメントは現場の担当や計画作成担当者が本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。意思疎通の難しい方には、表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者がアセスメントの更新を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とのお話の際、情報収集をこまめに行い、新たに知りえた情報を介護記録、フェイスシート等に全職員と共有し、適切な支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、等により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議や面会時において、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようにしている。また本人との会話、状態観察、介護記録、現場スタッフへ現状確認を行い、対処方法を考えながら、介護計画書を作成している。	モニタリングは各居室担当者と計画作成担当者が作成している。各ユニットの計画作成担当者がプランを見直し、その際担当者会議を開催し、本人・家族の他、医師らにかかわる多職種の人々等からも口頭や書面により意見を集約している。現場からの意見も踏まえ、評価・課題分析を行い変化を見逃さないようにして、現状に即した介護計画を作成している。	

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々介護記録に生活状況を記入している。定期的に記録を見直し、変化についても見逃さず対応できる様心がけている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状態、ご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入、訪問理美容、ボランティアの受け入れなど、施設以外のサービス利用を提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の神社にお祭りの手伝いに行った時の様子を利用者に伝えている。地域周辺のお店や公共施設等に利用者様と一緒に向かい、馴染みの地域とのつながりの確認や気分転換を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者の状態、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診を調整している。また特変時には、かかりつけ医に相談し、必要に応じて提携救急病院を受診する対応をしている	元々のかかりつけ医を希望される方は継続も可能だが、ほぼ全利用者が24時間、365日対応が可能な事業所の提携医による訪問診療を利用している。歯科診療の訪問もある。緊急時以外の他科受診は家族が通院同行を行うが、事業所が対応する事もある。グループホームに配置の看護師が不在の時も、併設の小規模多機能型居宅介護施設の看護職員と連携をとり、健康・体調管理や緊急時の対応をしている。職員間でも情報を共有し、家族への報告も適切に行っている。家族の安心に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・状態変化がみられた場合、看護職員に報告している。またかかりつけ医と綿密な連携を図り、健康状態の維持を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時の介護サマリーを提供している。 ・担当者が必要に応じて、情報交換を行い、共有できるよう、区内にある、ほとんどの総合病院との関係づくりができています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・日々の体調、状態を観察し、主治医と相談のもと、家族への報告、今後の対応について相談したのち、ミーティング等にて共有を図っている。	希望があれば最期まで支援する指針を定めており、入居時に説明して書面にて同意を得ている。早い段階から家族や医師と話し合いを重ねて方向を決め、看取り対象となった時には改めて同意書をもろう。看取りケアについては研修(地域の病院が主催する外部研修あり)で情報共有しており、また管理者は職員のメンタル面にも気遣っている。実際にはここ1年以内は看取りを行っていない。	

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し、周知している。必要に応じて、かかりつけ医の受診対応、救急外来受診対応できている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災マニュアルに基づいた防災訓練、避難訓練を行っている。BCP作成の為、各講習を受講し、BCPを作成した。	災害対策のマニュアルは完備、BCPも策定、適宜見直しをしている。年2回、夜間想定を含めた火災の避難訓練を、小規模多機能施設と合同で行い、救急対応、運搬や消火器使用方法などの認識の向上を図る。消防署が立ち会うこともある。上層階にも両側に避難路が確保されている。なお、水害については、ハザードマップ上は区域外ではあるものの、以前豪雨でトイレの水が上がったこともあり、土嚢(ど)う)は用意している。備蓄は水のみ確保している。	訓練において、地域住民や利用者家族の参加までではなくても、運営推進会議の場や連絡などで、訓練を行って万全な体制で臨んでいることを報告して安心してもらうと同時に、万が一の場合の協力をお願いすることを、軌道に乗せたいかがでしょうか。また、地域の避難訓練が開催されるようであれば、出席してみたいかがでしょうか。備蓄が水だけで良いのか、食料やおむつなどの用品なども含め、一度見直しをしたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者一人ひとりの人格の尊重を常に心がけるようにし、よそよそしくならない程度に、節度ある対応をしている。	接遇やプライバシー保護等の研修を定期的実施している。日々のケアの中で、言葉遣いについては利用者の尊厳を保つよう配慮している。トイレ介助の際には必ず扉を閉める等、羞恥心に配慮したケアも取り組んでいる。気になった際は、その都度、管理者や上長らが指導し、また職員同士でも注意し合っている。個人情報の取扱について、一般的な写真等の利用については家族より書面での同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の業務の流れよりも、できる範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実践している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・就寝時間、起床時間、食事など、利用者個別に沿った、生活リズムを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。 ・ネイルアートやマニキュア等をレクにて実施している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳、下膳、料理の盛り付けを利用者様と職員と一緒にやっている。 ・好みに応じ、外食をしている。	出来立ての温かい食事を提供したい、との施設長の思いもあり、3食とも、手作りされた食事が配食される。職員も同じものを職員食として食べており、おいしい、また食べたいと思っている。季節感あふれる食事を提供するとともに、各利用者の嚥下状態に合わせた形態に対応している。陶器の食器を使用し、家庭的な温かみがある食卓となっている。芋の皮むき、鯉節のグラムごとの袋詰めなど、手伝えることを職員と一緒にしたり、食材の買い出しと一緒にしたり、おやつ(餃子、ドーナツ、お好み焼など)と一緒に作ったり、と利用者同士が楽しみながら参加している。正月や敬老会などの特別食は豪華にする。寿司を食べに行く事もある。職員は見守り介助を行いながら、食事を楽しんでもらえるような雰囲気づくりに努めている。	畑やプランターでの作物を育てるような事はしていない、との事だが、何か育てて、それが実を結んで、食卓に上がるようなことがあると、また一段と食事が楽しくなるのではないのでしょうか。

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者本人の状態に応じた食事形態を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施や、見守り、状態に応じた食事介助を行っている。 ・毎月歯科受診(往診)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・可能な限り日中はおむつをしない様に支援している。 ・リハビリパンツやおむつ使用の方については定期的に声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を促している。 ・自尊心を傷つけないよう、尿取りパット等の使用を促している。	各ユニット2ヶ所ずつ、車いすの介助が十分な広さを有するトイレがある。排泄チェックに基づき、職員は確認しながら、利用者それぞれのタイミングを把握して誘導の時間を変えるなど、職員同士の改善の話し合いに役立てている。日中はなるべくおむつをしないで、職員による促しや声掛けを通して、トイレでの排泄を促している。排泄がうまくいった事例等も個別に申し送りして報告し、情報として共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事や水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。また、歩行運動、体操等の運動も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・できる範囲にて本人様のご希望を聞きながら、できるだけ希望に添えるよう実施している ・本人からの希望があれば、日中だけでなく夜間も入浴できる体制を作っている。	各階にユニットバスがあり、個浴を楽しみ、併設施設に機械浴があり、必要時には利用ができる。浴槽の湯は毎回入れ替える。週2回の入浴が基本だが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。拒まれた際も無理強いはせず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。ゆず・菖蒲湯など季節の行事浴を提供して喜ばれている。暖房も完備している。入浴時に皮膚観察も行っている他、特変時には医師に迅速な報告をするなどの対応を心掛けている。温泉気分に入る中で、職員とのコミュニケーションも楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安眠できるよう職員全員で気を遣っている。また、適宜、空調調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容、留意点について、その都度説明、理解し、対応を徹底している。不明点があれば、管理者、リーダーに相談するように心がけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各自の希望等を考慮し、生活歴や特性に応じた家事分担を実施している。 ・買い物、室内レク、外出レク、おやつ作り等、希望に応じて参加していただけるよう努力している。		

R7.2自己・外部評価票(グループホームリラ) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の散歩、施設の買い物への同行等希望を配慮しながら、外出できている。 ・区内の観光施設や植物園に行った。遠出が難しいときは、施設周辺の外気浴を行い、気分転換を図っている。 ・家族の希望による、外出外泊に対して協力できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防に配慮しながら、日々の散歩、買物(食材、ナフコなど)の他、門司港レトロ地区、風師山(かざしやま)、和布刈(めかり)公園、白野江植物公園などへ車で出かけた。関門海峡が一望できる喫茶店でくつろいだりもする。日頃から天気の良い日は、中庭でティータイムを兼ねた外気浴をしたり、足湯で癒されたりしながら、楽しい時間を過ごす。 	<p>コロナ禍が落ち着き、のびのびと外出する機会が増えてきたことはうれしいことです。今後は、外出の際に、家族や地域の人々の協力を仰いでみてはいかがでしょうか。</p>
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望、能力に応じ、本人が所持したり、施設にておさいふを預かったり、施設管理を行ったりしている。 		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望がある利用者様には、携帯電話をもってもらい、家族に電話できるようにしている。 ・手紙、葉書等をもらった時は、返事を書くように働きかけ、関係が継続できるよう、支援している。 		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のこまめな清掃を心がけ、清潔な環境を保てるように努めている。 ・気温や天候に合わせて、換気、室温調整、採光を行い、快適に過ごせるよう努めている。 ・音楽を流すことにより、リラックスできるように心がけている。 	<p>施設は1・2階に各ユニットが配置され、各フロアでエレベーターホールを挟んで左右に、小規模多機能施設と隣接している。キッチンを中心に、ホールと居室が配置され、窓からの採光も良い。職員は、音楽(YouTubeによるエンドレスの昭和時代の歌謡曲)や照明、空調等にも配慮しており、明るく清潔感がある。壁面には利用者と一緒に製作したジグソーパズルが飾られている。調査時は雛人形が並べられ、花も生けられるなど、春の訪れが待ち遠しい季節感を醸し出していた。ゆったりとした空間の中で、居心地がよく過ごせるように工夫している。</p>	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う利用者様同士が思い思いに過ごせるよう、配席をしている。 ・居室にて過ごしたいときがあれば、過ごしてもらっている。 		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅時から使っている馴染みの家具や食器、持ち物をお持ちいただき、居心地がよく、安心できる環境作りを努めている。 	<p>各居室は広めのフローリングで、ベッド(介護用ベッドと木製ベッドの選択が可)、エアコンが備え付けられている。日中は職員が換気に努め、臭いもない。掃除も行き届いている。使い慣れた愛着のある家具(お酒をたしなむ人が冷蔵庫を搬入している。他に仏壇など)を持ち込んだり、思い出の写真や作品などを飾ったりしており、その中で利用者は心地よく過ごしている。職員は居室内のレイアウトを通して安全面にも気を配っている。</p>	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人様の状態や現時点でのADLIに合わせ、居室や共用空間を考慮している。また、手すりや福祉用具を活用し、できる限りご自身の力を使って生活していただけるよう工夫している。 ・朝礼ノートやアセスメント等によりできることをしっかりと把握し、できる範囲で家事活動などを行っていただけるようにしている。 		